

# 異文化と心通わせ

つくば通信 ③

村田 佳子



2月22日、外国人医療 私もJICA医療コーの言語サポート研修会がディネーターとしての日つくば市の国際会議場で常とちょっといい未来へ行われました。神奈川県 提案を少しさせていたの港町診療所沢田貴志所 いただきました。パネリスト長の基調講演では外国人 積極的に参加した後半には増加の背景にある日本 積極的な参加者の声をう企業の外国人雇用の現状 かがうことができた愛有にも触れ、医療関係者と 意義な会となりました。日本語がわからない外国 それからこの会の中心と人の患者、双方にとって なる内容以外に私は「コいい診療体制とは、そして ミュニケーション」という可能なサポートとは何 う視点で気がついたことかについてお話がありました。

当日、140人余りの



## 勇気を出した人を孤独にしない

参加者の多くは医師、看護師、病院事務の方、救

急救命士など医療のプロの方々でした。私は普段さまざまな業種の方にお会いし、それぞれの業界の雰囲気に触れる機会がありますがここでもある特徴的な姿勢に出合うことができました。それは「聞く」といふ姿勢です。それも「傾聴する」ということ。参加者である医療関係者の皆さんにとってそれは自然なことだったのかもしれませんが、私はその様子を「訓練された高いコミュニケーションスキル」だと思えたのです。そう思った

のはこんな出来事があったからです。会場に来ていた外国人留学生の男性が日本語で質問をしました。大勢の前で手を上げてマイクで質問をするというのはドキドキすることだと思えます。それも自分の得意な言語でなければなおのこと。彼の話を日本語はまだ勉強の途中のようにした。少しはにかむように「もし、ええと、通訳、ええと、訓練、外国人のために」内容は外国人用に通訳訓練するプログラムはあるかという質問だったので、その内容をうかがい知るために数分を要しました。

そんな中、ともしれば「何を言っているの? この人」という態度をとる人もいるでしょうし、その人が最後まで話し終えるのを待たずして「こういうことですよ」と割り込むので解釈する場合もあるでしょう。でもその会場にいる方々は違いました。皆が、その質問者が何を言いたいのか、彼よりも前に座っていた人は後ろを向いて彼のほうに目を傾け、後ろの人は静かに耳を澄ましているのです。もちろん彼の発

する音を遮るような私語もありませんでした。勇気を出して発言した彼を孤独にしないという空気がそこにありました。

そして私もその雰囲気の中で発表をさせていだいたのですが真剣で、時にニッコリしながら傾聴する人たちの前にして落ち着いて話すことができました。すると「上手には発表できなかったも、私が持つ情報をここにいる人たちと共有しよう、そのために話そう」と自然に思えたのです。

自分の所属する業界にいるとそこではよく知られている習慣や技能は当然のようには身について、それは特別なことと感じなくなるかもしれませんが、ですが外からみるとそれはすてきな文化になるのだと思います。「勇気を出した人を孤独にしない」という文化。病気やけがを克服しようとする人たちを日々支え、一緒に治療する医療のプロの方々、この日は会場で「愛情ある静かなコミュニケーション」を教えていただきました。(蘭山出身)

外国人医療の言語サポート研修会がつくば国際会議場で開かれました(写真左から2人目が筆者)